

---

# 重たい鞆

たかぴょん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
重たい鞆

【Nコード】  
N0397D

【作者名】  
たかぴょん

【あらすじ】  
なかなか人生歩んで行くのが難しい。わたしはいつまでも《そのまま》で歩いて行こう

ある芝居に同じシーンが出てきた。

気まぐれな人生だと、ニヒリズムの匂いを運びつつ、とうとう「木枯らし一号」は東京の空を舞う。夕日が傾く。谷山をシャベルカーや雑工夫の手を酷使して作った迷路のような急斜面住宅地、蛇のように長い階段。この谷の番外地は行き止まりだらけで、さすがに車も嫌な顔をする。

夕日が人工迷路一帯をオレンジ色に染めた。夕日と迷路というのは良い付け合わせだ。漬物とご飯のようなもの。どこかしらしゃれている。今は営業マンとして働いている。重たい鞆を右肩に掛けながら、歪んでしまった骨格は学生時代を懐かしんだ。

スーパーマーケットで荷降ろしを終え、帰りのわたしはいつも白いシャツとベージュのチノパン、夏は首周りのたるんだTシャツにサンダル履き。

近くに高校があるから……という理由だけで作られた私鉄路線のひなびた駅舎。

体全身が寒気を覚える。県立名門伝統校の門がわたしを食う。誰にでも「嫌だな」という刹那があるものだ。猪突猛進に行こうとすると、顔が真っ赤になる。吹奏楽部の耳に響く「ボーボー」

チューニングするトランペット。

夕日が真っ赤だ。輝かしい将来が待つ帰り際「学ラン」と顔を合わせないように、右手は宙をつかむ。真っ黒で輝いた目を見てしまうと、入れなくなる。

「わたしは普通科定時制三年、普段着で潜らせていただきます」

裕福な家庭もあれば、温たたい一杯のご飯さえ口に出来ない家もある。わたしは国家から被害を被り、ある精神科へ強制入院（！）させられ、この情況に陥った。わたしは将来、彼らと同じ道を歩もうと思っていた。だがこの現状だ。

食堂横の壁、盛んに貼られた『早稲田大学理工学部〇〇名』『東大甲群？類〇名』何枚ものりがはがれ、風に揺さぶられていた。わたしは暗黒の殻を、どうしても破りたかった。

最終の四時限目、音楽の先生を待っている。隣にはいつも人気バンド・チエッカードのような髪型に決め、青いジーンズとジャケット好きの姉がいる優男K。反対側には円満な家庭を持つ陶芸家息子H。彼は友人思いの学習障害児であった。わたしは門を潜る前、こいつらと一緒にされたくないとかんしゃくを起こしていたのだ。毎朝から始まる力仕事、あらゆる苦痛は？夜？への恨みと凝固されていた。だが、彼らはわたしを仲間だと思って信じている。つぶらな瞳を見ていると両の目がうるんできた。今思えばKは更生したという過去を伏せていたのだろう。Kは「星がきれいだな」と言った。上げた顎に、髭は生えていなかった。わたしの代わりにHが「虫がいつぱい入ってくるよ」と釘を刺した。

「鞆が異常に重いな、会社もちゃんとした場所を廻らせろよ」かすれた声だけが響く。時計は夜七時四十五分。契約が一件も取れていない。

だがわたしは満足だ。成績がなんだ。自分の部屋へたどり着けば、本が首を長くして待っている。

《読者のみなさん、ただの本ではないのです》

国家資格や語学、その他もろもろの受験参考書だ。やはり経済的事

情などで一流大学の門を潜ることは出来なかった。

勉強が好きで、こつこつと成績が伸びて行くのが特に好きだ。傲慢かも知れないが、勉強がわたしに恋をしている。追い越して行くヘッドライトが糸を引くように光り、まぶしい。

この道を歩んで行くんだ。

### 《重い希望の鞆》

何歳になっても、それを肌身離さず、大切にしていこう。契約書が貯まれば、貯まるほど、わたし自身はもちろん、世の中へ幸福を与えられる気がする。

夕暮れにほのかに漂う校門。わたしにとって一生涯、消えることがない残像だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0397d/>

---

重たい鞆

2011年4月7日01時00分発行